

平成24年度 事業報告

短期入所生活介護事業所 和光苑

平成24年度 短期入所生活介護(ショートステイ) 事業報告

1. 「住み慣れた地域(家)での生活」を支える

利用背景の一つとして、利用者を含めた家族の心身状態の悪化に伴う負担の増加がある。

介護者の高齢化及び子供の健康悪化により、本人の配偶者が本人と子供の介護をせざるを得ない状況と共に本人自身の心身状態悪化による介護負担等の増加も目立っている。介護の長期化に伴い、定期的な利用形態を希望される割合が高いといえる。

核家族・高齢者世帯等の家族世帯構造内のくずれによる介護問題が利用要因や形態に影響を及ぼしている。

2. 他居宅介護支援事業所との関係

利用時の心身状態について、不審に思われる内出血痕等が認められた時やケアを行う点で十分な注意が必要時等、ケアマネとの情報交換を行い連携を図っている。

生協病院の居宅からの紹介により4名、約36日／月利用されている。25年10月以降、利用不可になる可能性がある。

新規の利用申込みには、医療的ニーズ(在宅酸素等)の高い利用者と男性利用者の利用申込み等があるが居室事情により利用が難しい面がある。

ロングのショート利用者が病気による入院、及び定期的に15～20日／月利用されている方の転倒・骨折による入院や誤嚥性肺炎による長期入院等により利用中止に至ったケースもある。

空きが出た時の対応について弾力的な運用ができるよう、その都度、空き情報等を提供するなど、早めの利用に結び付けて行く体制をつくる事が必要。

ショートステイの役割の一つである「レスパイトケア」の視点に立った運用や利用時のケアの質(ある程度しっかりされている利用者の方からは“つまらない”との声もある)の向上という課題が浮き彫りとなる。

短期入所生活介護

H24 年度実績

延べ利用者日数 2, 4 9 3 日

一日平均 6. 8 3 人

1. 要介護度別利用者割合の昨年との対比

H 2 3 年度			H 2 4 年度		
要介護度 4	30.3	%	要介護度 4	35.3	%
要介護度 5	21.1	%	要介護度 5	24.5	%
要介護度 1	18.5	%	要介護度 2	20.1	%
要介護度 2	16.6	%	要介護度 1	11.6	%
要介護度 3	13.5	%	要介護度 3	7.9	%
			要支援 2	0.6	%

2. 利用者様の居宅支援事業所の内訳

	H 2 3 年度	H 2 4 年度
居宅支援事業所和光苑	9 人	25 人(男 4 人)
和光苑以外の居宅支援事業所	7 人	9 人 (男 1 人)

3. 利用料の実績

基本サービス費

	延べ利用日数／日	単位／日	単位／年
要支援 2 個室	8	566	4, 528
多床室	8	614	4, 912
要介護 1 個室	250	609	1 5 2, 250
多床室	39	682	2 6, 598
要介護 2 個室	40	679	2 7, 160
多床室	462	751	3 4 6, 962
要介護 3 個室	23	751	1 7, 273
多床室	175	822	1 4 3, 85
要介護 4 個室	112	821	9 1, 952
多床室	769	891	6 8 5, 179
要介護 5 個室	106	890	9 4, 340
多床室	504	959	4 8 3, 336
計	2, 496		2, 0 7 8, 340

加算分

加算名	単位／日	延べ利用日数	単位／年
サービス提供体制	12	2, 496	29, 952
夜勤職員配置	13	2, 480	32, 240
送迎	184	653	120, 152

合計 2, 260, 684 単位

4. H24年度の目標に対しての実績

利用料

目標 2, 602, 224 単位

実績 2, 260, 684 単位…目標対比 86.9%

利用日数

目標 2, 748 日

実績 2, 496 日…目標対比 90.8%

5. 目標達成できなかった原因

- ・ロングショートご利用者が硬膜下血腫で入院され利用中止となる
- ・定期的ご利用者が誤嚥性肺炎や骨折で長期入院となり利用中止となる